

第1回旧遷喬尋常小学校校舎保存活用計画検討委員会会議概要

日時 令和4年7月8日（金）午後2時

場所 ①旧遷喬尋常小学校校舎 講堂
②久世エスパセンター 会議室

出席者

東京大学生産技術研究所教授 腰原幹雄（web）、京都工芸繊維大学教授 清水重敦（web）、神戸大学名誉教授 北後明彦、一級建築士・岡山ヘリテージマネージャー 山崎真由美、岡山理科大学建築歴史文化研究センター長・特任教授 江面嗣人（web）、真庭エスパ文化振興財団常務理事 高柳克彦、まにワッショイ代表 岡本康治、ひとさじ代表 矢野光子、グリッチ合同会社代表社員 黒田和美、文化庁文化資源活用課主任文化財調査官 五島昌也、岡山県教育庁文化財課参事 内池英樹
真庭市長 太田昇（①のみ）、真庭市副市長 伊藤敦哉、真庭市教育委員会教育長 三ツ宗宏、生活環境部長 今石久嗣、教育委員会教育次長 安藤紀子、ｽｰｯ文化振興課長 佐山宣夫、生涯学習課長 谷岡理江、生涯学習課参事 森俊弘、ｽｰｯ文化振興課主幹 二宗政志、ｽｰｯ文化振興課主幹 坂根和史、文化財建造物保存技術協会技術主任 齋賀英二郎

委員会① 旧遷喬小学校校舎講堂

1 開会 午後2時

2 委員委嘱

委嘱状交付 太田市長が順番に回り、委員に委嘱状を交付

3 市長あいさつ

（太田市長）

旧遷喬尋常小学校は母校でもある。卒業生だけでなく、真庭市だけでなく、日本にとっての財産で、歴史的遺産。市民が110年維持してきた。初等教育への意気込みをかけたもの。次の100年に残す義務がある。

活用しながら残すこと大事。活用、耐震、防火防犯が課題。防火防犯に気をつけながら、市民、市民外からも来てもらいたい。バリアフリーも大事だ。

4 委員紹介

（腰原委員）

専門は建築構造。この建物は活用、教育の場として期待されている。

（清水委員）

専門は建築史と文化財の保存活用。江川三郎八の研究を旧吹屋小学校の調査研究から手がけた。その観点から協力できれば。

（北後委員）

専門は建築防災、都市計画。火災の研究。主に火災時の避難計画、都市防災でいうと災害時の避難計画をこれまでやってきた。いろいろなことに配慮しながら未長く残していくために使っていくことに協力していきたい。

(山崎委員)

懐かしさを感じるこの校舎が未長く残って欲しいと思っている。

(江面委員)

専門は建築史。文化財は活用の面がこれまで議論されていなかった。活用の面について一緒に考えていきたい。

(高柳委員)

旧遷喬尋常小学校の指定管理者として新しい形での活用が進めばと思っている。

(矢野委員)

年に1度校舎を使ってマルシェを開催。今後もイベントを通じて多くの方に旧遷喬尋常小学校を知ってもらえるような活用を考えていきたい。

(黒田委員)

真庭といえば旧遷喬尋常小学校があると自慢できるような場所になればと思っている。

(伊藤委員)

行政の代表として市政の中で旧遷喬尋常小学校をどう活用していくのかを議論していきたい。

(三ツ委員)

旧遷喬尋常小学校が市民のアイデンティティとして確立していくようオープンな議論となり、これを見て感じた人が担い手として育っていく。そういう一つの契機になることを期待している。

5 会長・副会長について

事務局より会長・副会長・部会員(案)を提案

(拍手をもって承認)

[腰原会長、江面副会長挨拶]

(腰原会長)

木造校舎の改修もここ10年くらいで成熟してきた。耐震補強も様々な選択ができるようになった。活用しやすい形で耐震補強、修理工事ができるよう協力していきたい。

(江面副会長)

前回の旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用検討委員会で今後の活用の方針をまとめさせていただいた。今回は実際に修理を進めていくための検討委員会で、新たな文化財の活用方法の方向づけを議論していきたい。

会場移動 午後2時25分

委員会② エスパス（進行腰原会長）

再会 午後2時35分

〔資料説明〕

6 重要文化財旧遷喬尋常小学校校舎整備・活用基本構想について（二宗主幹より資料3を説明）

7 旧遷喬尋常小学校校舎の現況について（森参事より資料4・5を説明）

8 今後の策定スケジュールについて（二宗主幹より策定スケジュール資料を説明、齋賀技術主任より計画区域案資料を説明）

〔質疑〕

（北後委員）

防災面は、まだまだ検討課題がある。木造文化財は火災荷重も大きい。2階講堂の利用、マルシェ、おばけ屋敷など活用する際にどう安全を確保するか。管理についてのエスパスとの関係はどうなっているか。消火器だけで対応できるのか。監視が手薄になる明け方などの対応には、近隣住民との協力も必要ではないか。調査体制はどうなっているか。

（佐山課長）

防火防犯対策が重要である点は認識している。基本構想ではうたいきれていない部分。北後先生にも今後ご教授いただきたい。専門的な分野は、個別に先生から知見をいただき進めたい。

（腰原会長）

材料・劣化・耐久性というキーワードも配慮してもらえれば良いと思う。全体スケジュールは把握した。今回の計画は何年スパンで考えるのか。短期的なもの、中長期的なもの、意識して考えを進めていっていただければ良いと思う。

（佐山課長・齋賀技術主任）

計画策定は5年または10年が目安。

（高柳委員）

計画区域の背面10m、駐車台数にも響いてくる。代替駐車場の考えはあるか。

（佐山課長）

代替案はない。今後検討していく。

（北後委員）

敷地の使い方はどうなっているか。消防車の進入路や消火活動も検討すべき。見学者が全国からきたとき、印象を良くしてほしい。重要文化財として立派な建物にアクセスできるという印象があった方が良い。裏（駐車場）からのアクセスは印象が良くない。参考までに考えてほしい。

（腰原会長）

もうちょっと広いところから情報を発信してほしい（学校周囲の段階から、学校の存在をアピールする）。

休憩 午後3時35分

再開 午後3時40分

9 講演 京都工芸繊維大学教授 清水重敦委員 「江川三郎八と遷喬小学校」
建築学的観点から江川三郎八がどういうふう位置付けられるかという点も掘んでおいて
いただきたい。

江川式建築のように〇〇式建築と個人名がついてるはものはあまりなく、有名なのは辰野
式建築。他に堀江式建築、ライト式建築。

江川の建築は岡山県に多く残っている。出身地の福島県にも建造物が残っている。

江川式建築の特徴として、たすき掛けの筋交が壁面にある。そしてトラスと呼ばれる屋根
の構造体。これを露出して大空間を作る。江川本人がこれを江川式小屋組と呼んでいた。
併せて、江川式建築の特徴は、平面計画が尺寸（柱間 1,820mm）で計画されていること。
何となくむっくりしたところがある。

この保存活用計画策定を機会に、皆さんとディスカッションを重ねて、どう語るのが魅力
を伝えられるか深めていきたい。

10 フリートーク

（山崎委員）

木山の山の森から木を切り出せる可能性がある。旧遷喬尋常小学校の修理にも使ってほし
い。

（腰原会長）

使える部分があると良い。

（高柳委員）

修理に入る前までの期間で心配なところもある。雨漏りや外壁の塗装の剥落、小動物や防
火。防火訓練、放水訓練はしているが、足りているのか。地元消防団には訓練に参加いた
だいている。また、夜遅くに駐車している人もいる。タバコの不始末も心配。アクセスも
改善の余地がある。

（腰原会長）

セキュリティは重要だが、考えすぎると閉鎖的にならざるを得ない場合もある。あまり閉
じたものにしない方が良い。

（北後委員）

消防団は全国的に活動が低下している。そこだけで頼るのは難しい。常設消防、広域消防
との連携も大切。

（伊藤委員）

旧遷喬尋常小学校の文化的価値を改めて認識した。事業を進めていくには市民の理解が必
要。

（三ツ委員）

他の文化財との連携も視野に入れていくのが大事。興味のない方も、立ち寄れるような仕
掛けを作っていくことが大事。

（北後委員）

2階にエレベーターで上がる場合、避難はどうするのが難しい。バリアフリーを考慮し
た避難。先進的な対策ができるかが課題。

11 閉会 午後4時45分